平成 26 年 3 月 5 日

各　　位

会 社 名　ホクト株式会社
代表者名　代表取締役社長　水野 雅義
（コード番号　１３７９　東証第一部）
問合せ先　専務取締役管理本部長　高藤 富夫
（TEL.　０２６－２４３－３１１１ ）
（URL　http://www.hokto-kinoko.co.jp/）

マイタケの抗アレルギー作用に関するお知らせ

当社は、富山大学大学院医学薬学研究部 応用薬理学研究室 安東 嗣修（つぐのぶ）准教授との共同研究の結果、マイタケが、花粉症の症状を改善させる可能性があることを示す研究結果を得ました。この研究成果を 3 月 28 日に日本薬学会第 134 年会において発表することになりましたので、ご通知いたします。

＜発表の概要＞

演題名：　マウス眼におけるブタクサ花粉誘発アレルギー性反応に対するマイタケ摂取の効果
日　時：　2014 年 3 月 28 日(金)
会　場：　熊本市総合体育館

発表内容：

我々はこれまでに、マイタケの細胞レベルでの抗アレルギー作用を明らかにしてきました。本研究では、さらに動物レベルでのマイタケの抗アレルギー作用を明らかにするため、花粉症モデルマウスを作製し、マイタケ摂取の効果を検討いたしました。実験では、花粉症モデルマウスに、その体重に応じて 0.1 g/kg、1 g/kg のマイタケ粉末を単回経口投与しました。投与 1 時間後に同マウスのまぶたに花粉抽出液を注射し、引っ掻き行動と結膜の炎症状態を評価いたしました。その結果、マイタケを摂取したマウスでは眼の引っ掻き行動、また結膜の炎症の指標が有意に抑制されました。本動物実験で効果のあった摂取量を単純に 60 kg の人に換算すると 60 g のマイタケを摂取したことになります。今後、人が実際に食べて効果があることを実証するには、更なる動物への投与試験、人での治験が必要ですが、これまでの細胞実験に加え、この度の動物実験の結果より、マイタケには花粉症のアレルギー症状を改善する効果があることが期待できると考えられました。

実験内容については別紙を参照してください。

この件についてのお問い合わせ先：ホクト株式会社　営業企画室　神戸（ゴウド）
℡：026-243-3115　Fax：026-243-2121

マイタケの花粉症モデルマウスに対する抗アレルギー作用

弊社研究所と富山大学大学院医学薬学研究部 応用薬理学研究室 安東嗣修准教授との共同研究の結果、マイタケが、花粉症のアレルギー症状を改善させる可能性を示す研究結果を得ました。

背景・目的

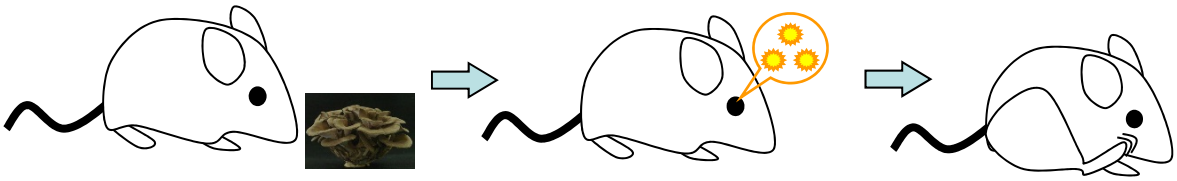
我々はこれまでに、マイタケの細胞レベルでの抗アレルギー作用を明らかにし、日本薬学会第133年会にて学会発表を行いました。本研究では、さらに動物レベルでのマイタケの抗アレルギー作用を明らかにするため、花粉症モデルマウスを作製し、マイタケ摂取の効果を検討しました。

実験方法

マウスにブタクサ花粉を3週間皮下注射することで花粉症モデルマウスを作製しました。

花粉症モデルマウスは症状により均一に群分けを行った後、マイタケ粉末を経口投与しました。投与1時間後にブタクサ花粉抽出液を上まぶたに注射し、後肢による眼の掻き動作回数と結膜の炎症状態を評価しました。結膜の炎症は色素を尾静脈注射した同マウスにおいて、花粉抽出液注射後に結膜に漏出する色素量を測定することで評価しました。

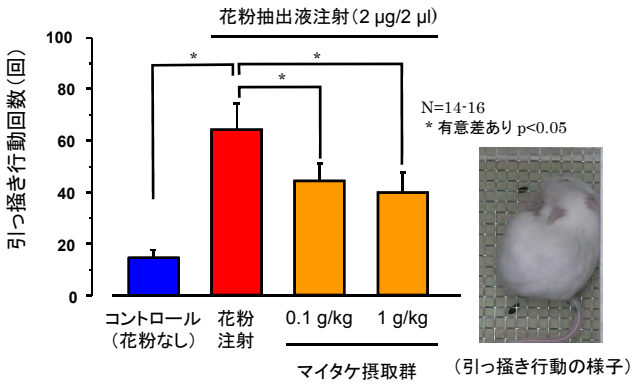
花粉症モデルマウスを用いたマイタケの抗アレルギー作用の検証



マイタケを経口投与　　上まぶたに花粉抽出液を注射　　目の引っ掻き行動
結膜の炎症状態を評価

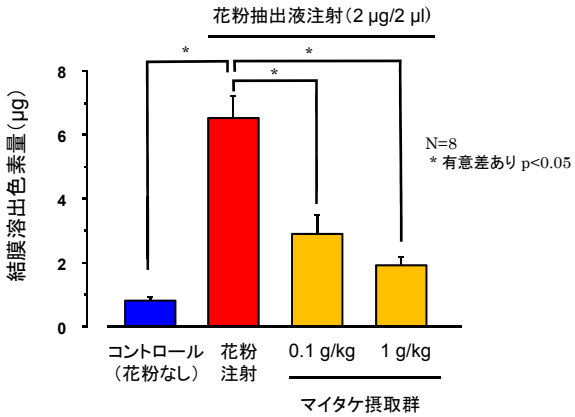
実験結果

マウスの引っ掻き行動の観察



(引っ掻き行動の様子)

結膜炎症の評価



ブタクサ花粉によって誘発される引っ掻き行動回数、結膜溶出色素量(炎症の指標)の増加が、単回のマイタケ摂取により、有意に抑制されました。

以上の結果から、マイタケは花粉症のアレルギー症状を改善する効果が期待できると考えられました。